

[概要]

名古屋市では地下鉄の建設に伴い、1957年に名古屋地下街（サンロード）が開業した。以来、地下鉄の開通等にあわせ増設され、現在では名古屋駅地区と栄地区を中心に約17万平方メートルの規模で広がっている。また地下街に関する研究は人々が地下街に対して持つイメージについて取り上げているものが不足しているため、本研究では雑誌における地下街に関する記述から地下街の表され方を示し、その特徴を考察する。さらに、大きな変化として雑誌に取り上げられるリニューアルに注目し、地下街のリニューアル前後の取り上げられ方を分析し、その変化の仕方を明らかにすることを目的として設定した。その結果、地下街の雑誌に表される特徴的な要素として、収容する店舗などを説明する商業施設としての要素と、接続するビルや改札といった駅と周辺施設を結ぶ地下通路としての要素といった二つの要素が確認できた。またリニューアルを通しての変化については、リニューアル時に新しい要素が取り上げられるものの、その前後を見ると構成要素に変化が見られず、地下街のイメージの固定化が推測された。それらのことから、地下街の持つイメージとして、商業施設かつ地下通路であること。そして、地下街ごとにある程度固定されたイメージを持っていることが考察できた。

キーワード：雑誌，テキスト分析，地下街，イメージ